

心理行動科学科

1 専門教育科目の構成

1. 心理行動科学科の教育目的

心理行動科学科では、人間の心理および行動の特性について学習し、人間についての理解を深めるとともに、科学的思考の能力を養成する。学習する領域は、認知心理学、社会心理学、産業心理学、スポーツ心理学など、心理学の基礎から応用まで広い領域にわたって専門的な学習が可能となるようカリキュラムを構成している。学科では、大学の授業による学習だけでなく、学生生活に関わる多様な経験を通じた学習も重視している。

心理行動科学科において心理学的知識を踏まえた幅広い教養を身につけることにより、一般企業や事業所において活躍できる人材を養成する。また、心理学の専門的知識を活かし、心理専門職への就職、あるいは大学院進学の道も考えられる。さらに、高等学校教員免許（公民）を取得し、教員を目指すことも可能である。

2. 心理行動科学科の特徴

心理行動科学科では、心理学の基礎を重視しつつ、心理学の専門領域を学ぶとともに、学部内他学科の多様な学問分野についても幅広く学ぶことができる。心理学の基礎的知識および技能の習得を重視するとともに、心理学の専門領域についても広く学ぶことができるよう教育課程を編成している。専門領域として、産業心理学、スポーツ心理学、音楽心理学など、東北地方の他大学では学ぶことが難しい心理学の領域も含めている。

また、教養教育を重視して、幅広い教養を身につけることを目指すとともに、学内外で他の学問分野を学ぶことにより専門としての心理学を相対化し、多面的に捉える能力の養成も目指している。

専門教育は、1年次から4年次まで少人数制によるセミナーを配置し、受け身の姿勢で知識を獲得するだけでなく能動的、積極的に課題を考え、解決する能力を育成する。また、講義科目は心理学の専門領域を広く網羅し、（社）日本心理学会認定の「認定心理士」資格の取得にも対応している。

3. 教育課程の特色

心理行動科学科の専門科目は次の科目群により構成し、基礎から専門へ漸進的に科目を配置する。

- a. セミナー
- b. 専門関連科目
- c. 専門基幹科目
- d. 専門発展科目

心理学の基本的知識を十分に習得させるよう少人数のセミナーを1年次から4年次まですべての学年に配置して、きめ細かな指導を行う。セミナーの段階的履修を通して、学生は研究内容を絞り込み、4年次の卒業論文の作成へと展開させる。

専門関連科目は、心理学と関わり深い学問分野の講義を1・2年次に開講し、幅広い知識を学習して人間の心理や行動を多面的に捉える視野を養う。

専門基幹科目は、専門科目の中核をなす科目群で、

心理学を学ぶ上で必要な知識、方法、技術を身につける。

専門発展科目は、3年次の基礎科目、3・4年次の展開科目および特殊講義で構成する。基礎科目によって実際の研究を進める上で必要な知識と技能を習得する。展開科目は発達や臨床を中心に、心理学の応用的側面について学習する。

2 履修方法

◆卒業要件単位

卒業するためには、以下の要件を満たし、合計124単位以上履修しなければならない。

1) 一般教育科目

一般教育科目は42単位以上履修すること。その科目内訳は以下のとおり。

◎必修科目（計42単位）

1年次：「キリスト教学Ⅰ」、「基礎演習」、「日本語演習」、「人文社会科学入門」、「自然科学入門」、「英語ⅠA・ⅠB」を各2科目、「運動スポーツ論」、「教養講義A～N」のなかから2科目

「ドイツ語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」または「フランス語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」または「中国語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」

2年次：「自然科学特論A～G」のなかから1科目、「総合コースA～J」のなかから2科目

3年次：「科学技術論」、「特殊研究A・B」（4年次でも可）
（「特殊研究A・B」については、2）専門教育科目の④専門発展科目（102ページ）を参照すること）

4年次：「キリスト教学Ⅱ」

◎選択科目

2年次：「英語Ⅱ」、「ドイツ語Ⅲ」、「フランス語Ⅲ」、「中国語Ⅲ」

3年次：「日本国憲法」

1～4年次：「シーズンスポーツ」

2～4年次：「スポーツ」

2) 専門教育科目

専門教育科目は、以下の要件を満たし、合計82単位以上履修すること。

セミナー・卒業論文	28 単位
専門関連科目	4 単位
専門基幹科目	22 単位
専門発展科目	20 単位
その他の科目	8 単位

①セミナー・卒業論文

セミナーは本学科の専門教育科目で最も重要な科目であり、1年次から4年次まですべて開設される。

1年次のセミナーには、実践セミナーと入門セミナーがある。入門セミナーでは専任教員すべての授

業を受けて、その中から2年次以降で受講するセミナーを2つ選ぶ。2年次では選んだ2つのセミナーを受講して、原則として、3年次でそのうちどちらかのセミナーを選ぶ。この3年次に選んだセミナーが、4年次に卒業論文を作成するセミナーとなる。年次が上がるにつれて全て→2セミナー→1セミナー→1セミナーと絞っていくという仕組みである。なお、丁寧な指導を徹底するため、2年次以上のセミナーには人数制限を設けている。各年次の後期授業終了時点で希望調査を行い、人数制限の基準に抵触するセミナーがある場合は人数を調整する。人数制限の原則は、下限を5名、上限を学生数÷教員数のおよそ1.5倍とする。

1年次の実践セミナーは、複数のテーマの中から1つを選び、担当教員の指導の下に実験材料の作成や、資料の収集・分析を行ない、その成果を公開発表する。心理学における思考方法や基礎的方法論に1年次から触れることを目的としている。

②専門関連科目

心理学と関わりの深い他の分野を学ぶ科目群で、1～2年次に開設される。これらの科目群の中から2科目4単位以上を修得することが求められる選択必修科目である。心理学を深く学ぶ前に、周辺領域の学問について大まかに知っておくことは、心理学を理解する手助けになるため、2科目4単位にとられず、可能な限り多くの科目を履修することが望ましい。

③専門基幹科目

心理学の伝統的な実験手法や研究領域を学ぶための科目群である。基礎科目と展開科目とに分けられる。基礎科目はすべて必修科目(6科目16単位)で、心理学で卒業論文を書くために必要な知識と技能を修得することを目的とした科目群である。展開科目は選択必修科目で、3科目6単位以上を修得しなければならない。

④専門発展科目

専門基幹科目を基礎として発展してきたさまざまな応用的な研究領域について学ぶ科目群である。基礎科目、展開科目、特殊講義に分けられる。基礎科目の目的は専門基幹科目の場合と同様で、すべて必修科目である(4科目8単位)。展開科目は選択必修科目で、2科目4単位以上を修得しなければならない。

特殊講義は、各教員の専門分野について最先端の知識や態度を学ぶ高度な科目群で、選択必修科目である。教育課程表では1科目しか表記されていないが、実際は専任教員全員が担当し、このうち4科目8単位以上を修得しなければならない。また、次の2つに注意しなければならない。a. 同一教員が前後期に開講する場合はこれらをセットで受講すること。b. 一般教育科目である特殊研究と合同開講になっている科目は、心理行動特殊講義としてしか履修できないこと。

⑤専門科目中のその他の科目

上で述べてきたどの科目群にも属さない科目で、これらの科目の単位を一切習得しなくても卒業することは可能である。しかし、知識・興味の幅を広げるために、可能な限り受講することが望ましい。これらの科目のうち、心理行動実践研修については、⑨で詳しく説明する。

⑥その他の科目

上に述べた専門教育科目の科目群について、必修科目と選択必修科目の単位を最低限習得すると74単位になるが、卒業するためには専門教育科目だけで82単位が必要なので、8単位が不足である。

これら8単位は、a. 一般教育科目の選択科目、b. 専門教育科目の選択科目(上述の①～④のうち、指定された単位を超えて修得した単位)、c. ⑤のその他科目、d. 他学科開放科目、e. 本学と協定を締結している他大学の単位互換科目、のいずれかによって満たすことになる。つまり、資格科目以外のあらゆる科目が対象となると考えればよい。

⑦キャップ制について

全体の学修計画(18ページ参照)に記載されているように、本学では前期・後期で履修できる単位数の上限をそれぞれ28単位、1年間に履修できる単位数の上限を48としている(28+28の56単位ではないことに注意)。なお、卒業要件単位以外の教職関連科目および、心理行動実践研修(⑨参照)については、この制限単位を越えて履修できる。

⑧開設年次について

たとえば「1年次開設科目」とは、1年生の時に単位を修得することを求められる科目である。開設学年よりも上の学年であれば履修は認められるが、可能な限り開設学年で修得するようにすること。下の学年の科目を履修しようとする場合、現在の学年の他の必修科目などと時間割が重なる可能性があるからである。

⑨心理行動実践研修

専門教育科目のひとつである心理行動実践研修は、本学科の専門教育科目のうち唯一の「認定科目」である。これ以外のすべての科目は、4月(ないしは9月)に履修登録をし、一定期間受講した上で評価を受ける「登録科目」であるが、「認定科目」は履修登録が必要ない。一定の要件を満たしたと判断される場合に学生が申請をし、その内容が要件を満たしていると学科が認めた場合に、その内容に応じて付与されるポイントを加算した結果として、30ポイントにつき2単位が認定される科目である。

心理行動実践研修は、学内では学ぶことのできない“生きた知識・経験”の獲得を支援する新しい試みで、本学科の重要な科目のひとつである。2～4年次に申請することができ、何度でも認定を受けることが可能である。この研修科目について、以下に詳しくみよう。

心理行動科学科は、心理学の学習には社会における実践経験が不可欠であると考え、学外における活動やカリキュラム外の活動で、かつ、心理学的な関連性や考察が可能な活動を支援する目的で、心理行動実践研修を開設する。心理行動実践研修は、それらの活動を研修と位置づけてその内容に応じたポイントを付与し、一定の基準に達した場合にはそれを単位として認定する科目である。

ポイントは、以下の原則に基づいて算出・認定される。

- A) 30 ポイントを 2 単位に換算する。
- B) 30 ポイントを超えたポイントは、4 年次後期の単位認定まで保持することができる。
- C) 1 学期で修得できるのは最大 4 単位までとする。
- D) 再度履修は何度でもこれを認める。
- E) 大学入学前の活動は原則として対象としないが、次のいずれかに該当する場合は認める場合がある。
 - (ア) 大学入学前の活動に加え、大学入学後の活動によって基準を満たした場合
 - (イ) 大学入学前に、本学との協定に基づいて、科目等履修生として本学科の開設科目を履修した場合
- F) ポイントは、学生からの申請に基づいて、各学期終了時点の学科会議の議を経て認定する。申請は各学期終了時前に一定の期間を設けて学科副手室で受け付ける。
- G) 学外での活動やカリキュラム外の活動で、かつ、心理学的な関連性や考察が可能な活動を支援するものであるが、あくまでカリキュラムが優位であることを徹底する。

ポイントは、以下の 4 つの種類の活動に分けてそれぞれ算出される。なお、(Ⅲ) および (Ⅳ) においてはセミナー担当教員の指導が必要となる。

- (Ⅰ) 大学入学前に、本学との協定に基づいて、科目等履修生として本学科の開設科目を履修した証明に基づいて認定されるポイント
- (Ⅱ) 学科が指定する資格の取得に基づいて認定されるポイント
- (Ⅲ) 本学以外の組織等が開講している授業・講習会を受講し、受講報告書の提出に基づいて認定されるポイント
- (Ⅳ) ボランティアなど学内外での活動に関して、教員の指導を受けて作成される活動報告書の提出に基づいて認定されるポイント

以下にそれぞれの活動におけるポイントの認定趣旨や認定方法について解説する。

- (Ⅰ) 大学入学前に、本学との協定に基づいて、科目等履修生として本学科の開設科目を履修した証明に基づいて認定されるポイント

所定の申請用紙に必要事項を記入し、履修証明書を添付して、定められた期間内に副手室に申請する。ポイント数は半期間の履修につき

25 ポイントとする。

- (Ⅱ) 学科が指定する資格の取得に基づいて認定されるポイント

- (1) 資格選定の基準 心理学に関わる資格で、資格試験の実施母体が社会的に一定の地位をもっていることが確認され、広く一般を対象として受験が認められているもの。
- (2) ポイント数決定の基準 ポイント数は、その資格が対象とする心理学の領域の広さや取得難易度、受験のしやすさ（受験料や試験場所など）を総合的に勘案して、学科会議の議を経て決定される。ポイント数の決定には、『心理学検定』を一応の基準とする。一度決定されたポイント数であっても、他の資格との関連性等を考慮して、ポイント数を変更する可能性については、これを妨げない。
- (3) 資格選定とポイント数決定の手続き 対象となる資格および各資格に付与されるポイントについては、学科会議の議を経た上で教務部委員会に提案し、教授会の議を経た上で、認定される。したがって、原則として前年度中に認定を受ける必要があるが、新たな資格の設置が期中に明らかになったなどの理由で、その資格ポイントの認定をしないことが学生の不利益になると判断される場合は、別途、教務部委員会での審議を求めることができる。
- (4) 対象となる資格一覧表 一覧表に示す。

- (Ⅲ) 本学以外の組織等が開講している学会、講座・講習会等を受講し、別に定める報告書の提出に基づいて認定されるポイント

- (1) 対象となる学会、講座・講習会等

- ① 日本心理学諸学会連合に加盟している学会および、日本人間工学会、日本スポーツ心理学会、日本音楽知覚認知学会の年次大会への参加（2 日以上の開催を目安とする）：10 ポイント（ただし、参加期間が 1 日程度の場合は②に準じる）

申請に必要な文書：①聴講した発表 3 つ以上の内容のまとめ、参加した感想、をまとめた計 3000 字程度以上のレポート、②参加を証明できる主催者等が発行する文書
- ② 日本心理学諸学会連合に加盟している学会および、日本人間工学会、日本スポーツ心理学会、日本音楽知覚認知学会の主催あるいは共催する、シンポジウム・講演会・講習会等への参加（およそ 1 日以内の開催を目安とする）：5 ポイント

申請に必要な文書：①聴講した内容のまとめ、参加した感想、をまとめた計 1000 字程度以上のレポート、②参加を証明できる主催者等が発行する文書
- ③ その他、上のいずれにも該当しないもので、学生からセミナー担当教員への事前の申し出に基づいて、学科がその講座等の受講を認める場合もある。なお、参加を証明する文書等が主催者によって発行されない場合は、セミナー担当教員の証明によってこれに代えることができる。

- (2) ポイント認定の手続き

●表 資格一覧

資格名称	実施機関	審査料・受験料等	その他費用	備考	ポイント
①書類審査のみで取得できるもの					
人間工学アシスタント	日本人間工学会	審査料 10,000 円	登録料 10,000 円 登録料 5,000 円 年会費 5,000 円	有効期間 5 年間 ※産業・経営心理学ゼミ所属学生のみ申請可	20
②試験のみで取得できるもの					
心理学検定 1 級	日本心理学諸学会連合	受験料 8,000 ～ 10,000 円	—	試験時間 1 領域当たり 20 分	60
心理学検定 2 級	日本心理学諸学会連合	受験料 6,000 ～ 10,000 円	—	試験時間 1 領域当たり 20 分	30
色彩検定 2 級	全国服飾教育者連合会	受験料 10,000 円	—	試験時間 80 分	20
色彩検定 3 級	全国服飾教育者連合会	受験料 7,000 円	—	試験時間 70 分	15
③講習を受講すれば取得できるもの					
臨床美術士 5 級	日本臨床美術協会	受講料 118,000 円	—	講習 28 時間	30
応急手当普及員講習	地方自治体の消防本部	無料	—	講習 24 時間 (3 日間)	20
水上安全法 I	日本赤十字社	600 円	—	講習 14 時間	15
雪上安全法	日本赤十字社	1,500 円	—	講習 14 時間	15
幼児安全法	日本赤十字社	1,500 円	—	講習 12 時間	15
家庭看護法	日本赤十字社	1,000 円	—	講習 18 時間	15
上級救命講習	地方自治体の消防本部	無料	—	講習 8 時間	10
救急法・基礎講習	日本赤十字社	1,500 円	—	講習 4 時間	5
④講習を受け、さらに、試験の受験が必要なもの					
色彩管理士	日本色彩研究所	受験料 10,500 円	1 講座当たり 20,000 ～ 30,000 円	1 講座受講終了を 1 単位とし 3 年間で 4 単位以上取得によって受験資格	30

- ①学会、講座・講習会等に参加を希望する学生は、事前にセミナー担当教員に口頭にて申し出て、その学会、講座・講習会等の参加に必要な指導を受ける。
- ②学生は、学会、講座・講習会等へ参加したのちに報告書を作成し、セミナー担当教員に報告書の添削を受ける。
- ③セミナー担当教員は、報告書を含めた一連の活動全般を吟味し、ポイントの対象になると判断した場合には学生にそれを告げる。
- ④ポイントの対象になることを告げられた学生は、別に定めるポイント審査申請書に必要な文書を添付して、定められた期間内に副手室に申請する。

(Ⅳ) ボランティアなど学内外での活動に関して、教員の指導を受けて作成される活動報告書の提出に基づいて認定されるポイント

- (1) 対象となる活動 ボランティア活動、サークル活動、あるいはアルバイト等、学生生活の中で体験し、報告書の作成が可能な何らかの心理過程の作用が認められる活動。報告書の作成も含め、総計で 10 時間を超える活動を対象とする。
- (2) 活動報告書とポイント数 指導教員の指導の下に活動を重ね、活動内容に応じて指定される最大 8,000 字程度の活動報告書に基づき、10 ～ 30 ポイントを認定する。
- (3) ポイント認定の手続き
 - ①ポイントの認定を希望する学生は、活動の開始に先立ち、指導を希望する教員に所定の申告書を提出する。申告を受けた教員は学科に報告し、学科は活動の内容、実施主体、場所等の妥当性について審議し、妥当と認められた場合は指導教員を指

定する。活動内容によっては、申告を受けた教員以外の教員が指定される場合もある。

- ②活動期間中、学生は所定の活動日誌に活動内容に関する事柄を記録し、それを随時指導教員に提出し、指導を受ける。
- ③活動終了後、さらに指導教員の全般的指導を受け、報告書を提出する。
- ④指導教員は、報告書を含めた一連の活動全般を吟味し、10 ポイント以上の活動に相当すると判断した場合は学科に報告し、学科の審議を経てポイントを決定する。

<用語解説>

■単位：単位とは、授業を履修するなど一定の条件をクリアしたときに与えられる数値のことを指す。一般には、1 週間に 1 回の授業 (80 分) を半期間受講する (15 回) と 2 単位となる。

■コマ：コマには以下の 2 つの意味があります。①本学では、原則として 1 回の授業を 80 分間としているが、この 80 分間の授業 1 回のことを「1 コマ」と呼ぶ。「私、今日は 3 コマ授業があるの」「金曜日はフルコマで疲れるよ…」②本学では、午前に 2 つ、午後に 3 つの授業がおこなわれる。これらを朝から数えて○コマと呼ぶ (正確には○時限目)。「明日は、1 コマから授業だよ」

■前期・後期：本学では、1 年を前後期の 2 つの学期に分けています。およそ前期は 4 月から 7 月末まで、後期は 9 月中旬から冬季休業 (冬休み) を挟んで 2 月上旬まで。これら前期、後期に、それぞれ 15 回ずつ授業は行

われる予定が組まれる。

- 履修登録と単位修得：履修登録とは授業を受ける登録をすること（単に履修とも呼ぶ）。一方、単位修得とは、授業を履修して課題をクリアして一定以上の評価を得たことを意味する（単に修得とも呼ぶ）。
- 合同開講：異なる名称の科目を、担当教員・科目内容を同一にして、同一の時間割で開講すること。

3 取得できる免許と資格

心理行動科学科の学生は、次の教育職員免許状と資格を取得することができる。取得方法については、「資格・免許」（P116～）を参照すること。

教育職員免許状：高等学校教諭一種免許状（公民）

資 格：認定心理士
人間工学アシスタント

4 教育課程表の記号について

・卒業要件…卒業に関わる授業科目	
必修	◎
選択（卒業要件単位）	△
自由（卒業要件単位には含まれない）	△
・免許・資格…免許・資格取得に関わる授業科目	
教職必修	教
教職選択必修	△教
教職選択	教

心理行動科学科教育課程表

部門	必修・選択・自由		授 業 科 目	単位	開設年次および単位				再度 履修	備 考
	卒業要件	免許・資格			1年次	2年次	3年次	4年次		
一般科目	◎		キ リ ス ト 教 学 I	2	2					
	◎		キ リ ス ト 教 学 II	2				2		
	◎		基 礎 演 習	2	2					
	◎		日 本 語 演 習	2	2					
	△		教 養 講 義 A	2	2				可	2科目4単位以上選択
	△		教 養 講 義 B	2	2				可	
	△		教 養 講 義 C	2	2				可	
	△		教 養 講 義 D	2	2				可	
	△		教 養 講 義 E	2	2				可	
	△		教 養 講 義 F	2	2				可	
	△		教 養 講 義 G	2	2				可	
	△		教 養 講 義 H	2	2				可	
	△		教 養 講 義 I	2	2				可	
	△		教 養 講 義 J	2	2				可	
	△		教 養 講 義 K	2	2				可	
	△		教 養 講 義 L	2	2				可	
	△		教 養 講 義 M	2	2				可	
	△		教 養 講 義 N	2	2				可	
	◎		人 文 社 会 科 学 入 門	2	2					
	◎		特 殊 研 究 A	2			2		可	
	◎		特 殊 研 究 B	2			2		可	
	△	教	日 本 国 憲 法	2			2			
教 育 科 目	◎		自 然 科 学 入 門	2	2					
	△		自 然 科 学 特 論 A	2		2			可	1科目2単位以上選択
	△		自 然 科 学 特 論 B	2		2			可	
	△		自 然 科 学 特 論 C	2		2			可	
	△		自 然 科 学 特 論 D	2		2			可	
	△		自 然 科 学 特 論 E	2		2			可	
	△		自 然 科 学 特 論 F	2		2			可	
	△		自 然 科 学 特 論 G	2		2			可	
	◎		科 学 技 術 論	2			2			
	△		総 合 コ ー ス A	4		4			可	2科目8単位以上選択
科 目	△		総 合 コ ー ス B	4		4			可	
	△		総 合 コ ー ス C	4		4			可	
	△		総 合 コ ー ス D	4		4			可	
	△		総 合 コ ー ス E	4		4			可	
	△		総 合 コ ー ス F	4		4			可	
	△		総 合 コ ー ス G	4		4			可	
	△		総 合 コ ー ス H	4		4			可	
	△		総 合 コ ー ス I	4		4			可	
	△		総 合 コ ー ス J	4		4			可	
	◎	教	英 語 I	A 1	1					各2科目計4単位必修
外 国 語 科 目	◎		英 語 I	B 1	1					
	△		英 語 II	1		1			可	
	△		ド イ ツ 語 I	A 1	1					同一外国語を 4科目4単位以上選択
	△		ド イ ツ 語 I	B 1	1					
	△		ド イ ツ 語 II	A 1	1					
	△		ド イ ツ 語 II	B 1	1					
	△		フ ラ ン ス 語 I	A 1	1					
	△		フ ラ ン ス 語 I	B 1	1					
	△		フ ラ ン ス 語 II	A 1	1					
	△		フ ラ ン ス 語 II	B 1	1					
	△		中 国 語 I	A 1	1					
	△		中 国 語 I	B 1	1					
	△		中 国 語 II	A 1	1					
	△		中 国 語 II	B 1	1					
	△		ド イ ツ 語 III	1		1			可	
	△		フ ラ ン ス 語 III	1		1			可	
	△		中 国 語 III	1		1			可	
体 育 科 目	◎	教	運 動 ス ポ ー ツ 論	2	2					
	△	教	シ ー ズ ン ス ポ ー ツ	1		1			可	
	△	教	ス ポ ー ツ	1			1		可	

部門	必修・選択・自由		授 業 科 目	単位	開設年次および単位				再度履修	備 考
	卒業要件	免許・資格			1年次	2年次	3年次	4年次		
専 門	セ ミ ナ ー	◎	心 理 行 動 入 門 セ ミ ナ ー I	2	2					
		◎	心 理 行 動 入 門 セ ミ ナ ー II	2	2					
		◎	心 理 行 動 実 践 セ ミ ナ ー I	2	2					
		◎	心 理 行 動 実 践 セ ミ ナ ー II	2	2					
		◎	心 理 行 動 セ ミ ナ ー I	2		2				2科目4単位
		◎	心 理 行 動 セ ミ ナ ー II	2		2				2科目4単位
		◎	心 理 行 動 セ ミ ナ ー III	2			2			
		◎	心 理 行 動 セ ミ ナ ー IV	2			2			
		◎	卒 業 研 究 セ ミ ナ ー I	2				2		
		◎	卒 業 研 究 セ ミ ナ ー II	2				2		
		◎	卒 業 論 文	4				4		
専 門 関 連 科 目	△ 教		哲 学 概 説	2	2					2科目4単位以上選択
			社 会 学 概 説	2	2					
			人 間 工 学 概 説	2	2					
			生 物 学 概 説	2	2					
			医 学 概 説	2	2					
			文 化 人 類 学 概 説	2	2					
専 門 基 礎 科 目	◎ 教		心 理 学 概 説	2	2					
			心 理 学 情 報 処 理 実 習	2	2					
			心 理 統 計 法 概 説	2		2				
			心 理 統 計 法 実 習	2		2				
			心 理 学 基 礎 実 験 実 習 I	4		4				
			心 理 学 基 礎 実 験 実 習 II	4		4				
	△ 教		教 育 心 理 学 概 説	2		2				3科目6単位以上選択
			学 習 心 理 学 概 説	2		2				
			認 知 心 理 学 概 説	2		2				
			生 理 心 理 学 概 説	2		2				
			パ ー ソ ナ リ テ ィ 心 理 学 概 説	2		2				
			社 会 心 理 学 概 説	2		2				
専 門 発 展 科 目	◎ 教		心 理 学 研 究 法 概 論 I	2			2			
			心 理 学 研 究 法 概 論 II	2			2			
			社 会 調 査 法 概 論 I	2			2			
			社 会 調 査 法 概 論 II	2			2			
	△ 教		発 達 心 理 学	2			2			2科目4単位以上選択
			乳 幼 児 心 理 学	2			2			
			児 童 青 年 心 理 学	2			2			
			臨 床 心 理 学	2			2			
	△ 教		カ ウ ン セ リ ン グ 法 概 説	2			2			2科目4単位以上選択
			児 童 青 年 精 神 医 学	2			2			
	◎ 教		心 理 行 動 特 殊 講 義 I	2			2		可	4科目8単位以上選択
			心 理 行 動 特 殊 講 義 II	2			2		可	
そ の 他	△		心 理 行 動 実 践 研 修	2		2				
	△		家 族 心 理 学	2			2			
	△		青 少 年 社 会 心 理	2			2			
	△ 教		政 治 学 概 説	2	2					
	△ 教		経 済 学 概 説	2	2					
	△ 教		国 際 関 係 論	2	2					国際文化学科開設
	△ 教		政 治 社 会 論 I	2			2			国際文化学科開設
	△ 教		政 治 社 会 論 II	2			2			国際文化学科開設

部門	必修・選択・自由		授 業 科 目	単位	開設年次および単位				再度 履修	備 考
	卒業要件	免許・資格			1年次	2年次	3年次	4年次		
教 職 に 関 す る 科 目	△	教	教 育 原 理	2	2					
	△	教	教 育 制 度 論	2	2					
	△	教	教 職 概 論	2	2					
	△	教	教 育 方 法 論	2		2				
	△	教	特 別 活 動 の 理 論 と 方 法	2		2				
	△	教	生徒指導 A (進路指導を含む)	2		2				
	△	教	教 育 相 談	2			2			
	△	教	社会科教育法Ⅱ (公民分野)	2		2				
	△	教	公 民 科 教 育 法	2			2			
	△	教	教 職 実 践 演 習 (中 ・ 高)	2				2		
	△	教	教育実習 B (事前事後指導を含む)	3				3		
計			一 般 教 育 科 目	124						
			専 門 教 育 科 目	104						
			教 職 に 関 す る 科 目	23						
			合 計	251						